

## 武漢事務所便り週間新聞記事報告 2010.05.8 - 2010.05.14

2010年5月10日付け「大楚ネット」

### 武漢天河空港第三ターミナル着工

～外見は鳳凰が翼を広げたように～

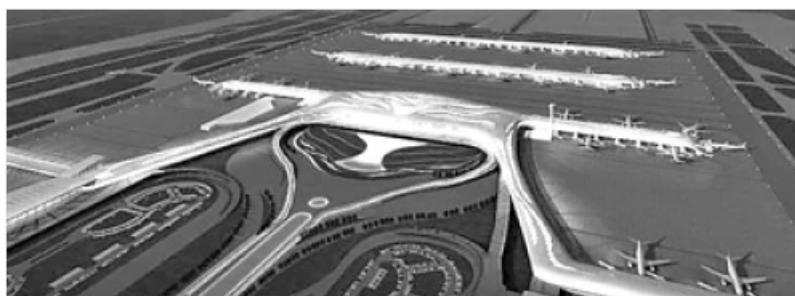
昨日、天河空港にて二つの工事が同時に着工された。第三期建設工事の定礎式が行われ、国際ターミナルが着工、総投資額は 146.16 億元(192.4 億円 1 円 = 15 円)におよぶ。責任者の韓氏の説明によると、まず空港の第三ターミナルのメインビルを着工する。これから、旅客数が増加した場合、「付属ターミナル」も建設予定、両ビルは 500 メートル離れている。

～全国でもハイレベルの滑走路を建設、世界最大のA380も着陸可能～

第三期工事では、長さ 3600 メートル、幅 60 メートルの滑走路を新たに建設する。全国においても最高レベルの滑走路であり、A380 着陸が可能となる。既存の滑走路も全国トップレベルまでレベルアップさせる予定である。

韓志亮氏の説明によると、新しい滑走路が完成すると、飛行機が二機同時に離着陸可能となるので、離着陸の効率も高まる。

第三ターミナルは「天河空港建設企画」の一部分に過ぎない。将来、天河空港の総敷地面積は 1722 ヘクタールの広さに及び、空港は「南の部分が旅客運輸、北の部分が貨物運輸という配置」になる。南北方向の滑走路 4 本で、A380 などの各種の飛行機が離着陸可能となり、年間旅客数は 7500 万人に達し、貨物は 100 万トンで、60～70 万便が離着陸可能となる。



第三ターミナルの予想図

2010年5月10日付け「長江ネット」

### 武漢市初の「緑化壁」誕生

昨日、航空路新世界センタービルの壁に160平米の緑の壁が掛けられ、これは武漢市初の「緑化壁」である。

ビルは現在建設中であり、壁一面に緑の植物が植えられ、植物の間には黄色い小さな菊の花が咲いている。この緑の壁はまるで模擬地形図のようで、長江の水が流れる姿を現し、周辺の街に生き生きとした雰囲気を与えている。

武漢市園林企画設計院景観工程会社の副総経理黄健氏によると、壁の緑化面積は160㎡で、合わせて12種類の植物が植えられている。植えられた植物は全て武漢市に適応する台湾ンアオキ、ジャノヒゲ、オノマンネングサ、スイカズラ、セキチク、ツクバネウツギツク、バネウツギなどの草や花と小灌木である。これらの植物は1年を通して緑色であり、かつ季節により異なる視覚効果が得られるよう考慮されている。

この技術は上海潤辰建築諮問会社により提供されている。本プロジェクトの責任者である陳鳴氏の話によると、これらの植物はそれぞれ小さな板の中に植えられ、合わせて750枚で構成されている。また水耕栽培と水性肥料を利用し、その水が流れしまわないように板の表面でとどまる機能が採用されている。PEパイプで点滴散水方法を利用し、そうすることによって水を節約することができる。この壁をきれいに見せるため、これらの植物は事前に植物試験場で1カ月から2カ月にかけて、垂直栽培が行われた後、わずか1週間で完成した。



武漢初の緑壁